

テーマ バイクに乗る楽しさを多くの人に知って欲しい

正地健太 (21211172ks@tama.ac.jp) 杉田ゼミ

・問題提起

バイクに乗ることの楽しさを知らない人は、様々あるレジャーの中でバイクに乗るという選択肢が端から除外されている。

・原因と背景

日本の四大メーカーは上手く顧客にバイクに乗ることの楽しさを伝えていない。その一つに雑誌などの媒体でしかアピールされていないと言う原因が上げられると思う。また、メディア露出が少ないためバイクに対して認知度が低いのではないかと考える。そして、国内での規制やバイクに対して駐車場などの設備環境が整っていない。加えて、危険であるといったマイナスイメージが付きまとっている。そのため、バイクか車どちらに乗るかときかかれたらだいたい人は車に乗ると答えるのではないか。移動手段として見るのであれば、現在ロードバイクや電動アシスト自転車、軽自動車、ハイブリットカーなど乗りやすく使い勝手のよい代替品が多く出回っている。(車に乗っていてもバイクのように楽しいとは言えない)

・解決方法

もっと車のように雑誌やネットだけでなく誰もが見る CM などの効果が期待できるメディアに出すべきである。また、体験談等を織り交ぜながら口コミなどでバイクのよさを広めていけるとよいのではないかと考える。

・解決の模索

バイク所有者が男女問わず全年齢で増加して自動二輪市場が拡大傾向になることが一番のゴールであるが、バイクを走らせる楽しさ、風を感じる爽快感をもっと多くの人に味わってもらいたいと思う。バイクはレジャーとして成立するものだということを理解してもらい、特集番組等を通じて、全年代へバイクのよさを伝えてほしいと思う。そして出かける際、代替品である車ではなくバイクで出かけるんだという意識に変化するように促し乗ることの楽しさを広めていく必要がある。

・解決方法の模索

インターネットなどで統計データを調べ、新たなアイデアがないか模索していく。